

## 令和5年度第1回福岡県観光審議会 議事概要

### 1 開催日時・場所

(1) 令和5年8月28日(月) 10:00~12:00

(2) 吉塚合同庁舎 特5会議室

### 2 議題

(1) 令和5年度の観光審議会スケジュールについて(資料1)

(2) 福岡県観光の現状と課題について(資料2, 3, 4)

(3) 第三次福岡県観光振興指針策定に向けた意見聴取

### 3 議事概要

別紙のとおり

## 開会

(事務局)

ただいまから、第1回、福岡県観光審議会を開催いたします。

本日はお忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

まず、資料の確認をさせていただきます。お手元の配付資料一覧の下、上から順に次第、委員名簿、座席表、それから資料1、福岡県観光審議会スケジュール(案)、資料2、福岡県観光の現状と課題について、資料3、令和5年度における観光振興の取組状況について、資料4、第二次福岡県観光振興指針期間中の主な施策(2020年～2022年度)についてとなっております。

不足等ございましたら挙手をお願いいたします。無いようですので進めさせていただきます。

初めに、観光局長から一言ご挨拶を申し上げます。

皆さんおはようございます。

皆さん、委員の皆様方にはお忙しい中、また暑さ厳しい中、ご出席いただきありがとうございます。

今回が、令和5年度第1回の審議会になりますが、昨年度は8月と3月の計2回の審議会をさせていただきました。皆様からいただきましたご意見につきましては、事業の実施や施策の検討について、活用させていただきました。誠にありがとうございます。

今年度につきましては、福岡県の観光振興指針の策定年に当たりますので、例年よりも少し数多く審議会のほう開催させていただくこととしております。皆様本当にお忙しい中大変恐縮ではございますけれども、どうぞご理解ご協力のほどよろしくをお願いいたします。

本日の審議会では、本県の観光の現状と課題、そして今年度の取り組み、そして現在の観光指針の期間中の取り組みとその実績についてご説明させていただきます。

委員の皆様におかれましては忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくをお願いいたします。

では本日よろしくをお願いいたします。

次に、開会にあたりまして、本審議会の会長よりご挨拶をお願いいたします。

(会長)

皆さんおはようございます。

本日は、令和5年度第1回目の審議会ということになります。

前回の審議会では、令和4年度における観光振興の取り組み状況及び令和5年度における観光振興施策の方向性について、委員の皆様から貴重なご意見を賜りました。

本日の審議会では、今年度で第二次観光振興指針が期間満了ということになることから、翌年度以降の第三次福岡県観光振興指針の策定に向けた、スケジュールについて確認をいたしますとともに、令和5年度における観光振興の取組状況や、現状・課題を確認した上で、指針策定に向けた意見交換を行って参りたいと考えております。

さて、最近の情勢を見ますと、5月には新型コロナウイルスが2類から5類に移行されまして、行動制限もなくなり、人の動きが非常に活発になって参りました。

また、今月の10日には、これまで個人旅行のみでありました中国の日本への団体旅行が解禁ということになりまして、さらなるインバウンドの回復に期待が持てるところでございます。

今後福岡県では、10月にツール・ド・九州といった大型スポーツイベントが行われます。また来年春には、福岡・大分デスティネーションキャンペーンが、2025年には大阪・関西万博が開催されるなど、福岡の観光にとっては、大きなチャンスであると考えております。

こういった機会を活かしまして、誘客につなげていくためにどのような施策を実行していくことが良いのか、この審議会を通じて県に提案をして参りたいというふうに思います。

県におきましては、当審議会の意見を踏まえまして、第二次福岡県観光振興指針に掲げました。「持続可能な観光先進県 福岡」という、目指す将来像に一步でも近く、早く近づくために、より一層の観光振興を図っていただきますよう、お願いをいたします。

委員の皆様からは、本日は忌憚のないご意見を賜りたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局)

ここで定足数についてご報告いたします。

委員総数13名中、本日の出席は、オンラインでご出席されている委員の方を含め10名でございますので、福岡県観光審議会規則第8条第2項の過半数の出席の要件を満たしております。当審議会は有効に成立していることをご報告いたします。

ここで本日、当審議会に初めてご参加いただいております委員の方々に簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。

(委員)

本年6月より支部長を仰せ使って今回初めての参加ということでございますが、特に旅行業者という目線でいろいろなご提案ができればと思いますので、何卒よろしくお願ひいたします。

(委員)

皆様よろしくお願ひいたします。

私どもはですね、遠い福岡県の八女市というところで、主に九州の全国、今やっているんですけども伝統工芸だったり、ものづくりを伝えるお店ということでスタートしておりまして、今、小売業とあと卸売業と、八女で2店舗そして昨年からはらぼーと福岡さん、アクロス福岡さんでも店舗を展開させていただいております。

そういった、地域の事業者として、本当に小規模ではあるんですけども、ものづくり伝統工芸の分野からですね、何かをお伝えできればとは思っております。

またあとグループ会社で旅行業の方もやっておりまして、小さいですけども宿泊業だったりとか、筑後地域での、ツアー企画の造成などもしておりまして、私自身も通訳ガイドとしてもたまに

ご案内したりしておりますので、本当に小さな規模ではありますが、現場からのリアルな声をお届けできればと思っておりますよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、これ以降の進行は、会長にお願いをいたします。

## 議題 1 令和5年度の観光審議会スケジュールについて（資料1）

(会長)

はいそれではお手元の議事次第に沿って進めて参ります。

まず、議題の1「令和5年度の観光審議会スケジュールについて」でございます。

事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

皆様おはようございます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

それではですねお手元の資料1「福岡県観光審議会スケジュール（案）」をお願いいたします。

先ほどですね会長のご挨拶にもございましたけれども、第二次観光振興指針が今年で満了することから、翌年度以降のですね、新規指針を策定する必要がございます。そのため今回、今年度は4回ですね、審議会を予定しております。

本日の第1回審議会以降、第2回を11月の中旬頃、第3回を来年1月上旬頃、第4回を2月の中旬頃に開催したいと考えているところでございます。

本日はですね「本県の観光の現状・課題について」、それから「現在の観光振興の取組状況について」ご説明をさせていただき、「第三次の指針の策定について」、委員の皆様のご意見を伺いたいというふうに考えているところでございます。

第2回では、本日委員の皆様からいただくご意見を踏まえまして、第三次の指針の概要案をお示しし、第3回では、指針の素案をご議論いただき、1月中旬のパブリックコメントを経て、第4回に指針の最終案を決定いただくこととしております。

資料1に関する説明は以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

(会長)

ただいま事務局から議題1の説明がございました。

事務局の説明を踏まえまして、令和5年度の観光審議会スケジュールについて、委員の皆様からご意見、ご質問があれば、お伺いをしたいと思います。

ご意見のある方は、挙手の上ご発言をお願いいたします。

(挙手無し)

よろしゅうございますか。

スケジュールでございますので、細かい日程調整大変かと思いますが、よろしく願いいたします。

ありがとうございます。それでは欠席されている議員の方からお預かりしている意見は特にないのですか。

(事務局)

はい。欠席委員からのご意見も特にございません。

(会長)

わかりました。

特に意見がないようでございますので事務局案の流れで進めさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

続いての議題に移ります。

## 議題2 福岡県の観光の現状と課題について（資料2、3、4）

(会長)

議題の2「福岡県の観光の現状と課題について」でございます。

第三期福岡県観光振興指針の策定に当たりまして、福岡県の観光振興に必要な取り組みを検討するにあたっては、まず、福岡県の現状と課題や、現在取り組んでいる政策、第二期指針で取り組んできた事業について把握する必要がございます。

まずは、福岡県観光の現状と課題や、取組内容について、資料2から4に沿いまして、説明をお願いいたします。

(事務局)

はい。ありがとうございます。

それではですねお手元の資料2「福岡県観光の現状と課題について」をお願いいたします。

1ページをお願いいたします。昨年度の審議会でもご説明をさせていただいたところでございますけれども、本県では、地方創生の観点から、観光を重要な産業と位置付けまして、県内各地に観光客を呼び込み、消費と雇用を生み出すため、「福岡県観光振興指針」を策定し、観光振興に関する施策を総合的かつ計画的に進めておるところでございます。

令和2年度から5年度までの4年間、西暦で言いますと、2020年度から2023年度となりますけれども、この4年間を期間といたしました第二次観光振興指針におきましては、目指す将来像といたしまして、「持続可能な観光先進県 福岡」というテーマを設定しております。

各種データに基づいた「戦略的なインバウンド誘客による旅行消費額の拡大」、観光資源の磨き

上げや活用などによる、「旅行者の県内各地への来訪促進」、世界的なデジタル化の潮流を踏まえた、「デジタルマーケティングの推進」、観光産業の成長と地域社会の調和が図られた、「持続可能な観光の推進」という4つの方針に基づき、施策を推進しているところでございます。

2ページをお願いいたします。本指針における目標値、KPIにつきましては、外国人入国者数や延べ宿泊者数、旅行消費額等の増加を目指すものとしたしまして設定をしておるところでございます。令和4年度の実績につきましては、令和3年度を上回り、回復傾向にあるものの、新型コロナの影響により、目標値の達成は極めて厳しい状況ということになっております。

3ページをお願いいたします。先ほどご説明いたしました基本方針に基づいて実施する施策は、4つの柱に沿って実施することとしております。

1つ目の柱が、「受入環境の充実」として、すべての旅行者が、快適に楽しめる環境整備を行うこととしております。成果指標といたしましては、「外国人宿泊者数」、「インバウンドの受け入れに協力いただける店舗数」、「福岡バリアフリーマップに掲載された施設数」としてしております。

2つ目の柱は、「観光資源の魅力向上」でございます。食や歴史、文化等の本県ならではの魅力ある観光資源の発掘、磨き上げに取り組むとともに、アクティビティや農林漁業体験等との、観光を組み合わせた体験、交流、滞在型の観光振興に取り組むこととしております。成果指標は、「旅行消費単価」、それから「旅行商品として販売した体験プログラムの数」、「サイクルツーリズムのモデルルート数」としてしております。

3つ目の柱につきましては、「効果的な情報発信」といたしまして、本県の認知度向上、東南アジアや欧米豪等からの誘客を促進することとしております。成果指標といたしましては、「SNSのフォロワー数」や「ホームページへのセッション数及び時間」としてしております。

最後に4つ目の柱が、「観光振興の体制強化」でございます。観光関連事業者や観光ガイドなどの人材育成、観光まちづくりに取り組む団体への支援等を行うこととしております。成果指標は、「DMO及びDMO候補法人の数」、それから「観光ガイドや案内所スタッフなどの人材」を増やすことを目標としております。

令和4年度の現状でございますけれども、指針期間中はやはり新型コロナの影響もございまして、例えば、1の真ん中に記載しておりますインバウンド協力店登録数は伸び悩んでいるところでございます。また、リアルでの研修ができない期間もあり、4の2段目にある、人材育成研修、受講者数も目標をやや下回っているところでございます。

一方でコロナ期間中も新たな観光地域づくりによる体験コンテンツの造成や、SNS等を活用のデジタル技術を活用しました情報発信に注力して取り組んだ結果、2、観光資源の魅力向上の真ん中にございます、インバウンド向け体験プログラム数や、3番、効果的な情報発信のSNSのフォロワー数、4番、観光振興の体制強化にございますDMO及び候補法人数については、目標値を大きく上回っているところでございます。

なおですね、ただいま第二次観光振興指針のご説明をさせていただきましたけれども、本県ではですね、令和4年から8年に向けて、県政を計画的に着実に進めていくための指針といたしまして、「福岡県総合計画」を策定し、その中においても観光関連の数値目標も設定しているところでございます。これまでの審議会においても、この総合計画に関しましてはご説明をさせていただいたと

ころでございますけれども、改めて、総合計画の内容を確認したいというようなご意見がございました場合は後程、事務局までお申し付けいただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

4 ページをお願いいたします。延べ宿泊者数の現状でございます。左下の棒グラフをご覧ください。令和元年の2,042万人をピークに、令和2年、令和3年は、コロナにより半減しております。令和4年は、コロナ前の約7割まで回復しまして、1,399万人となっております。右下のですね、月別宿泊者数では、一番右になりますが、ちょっと字が小さくて大変恐縮でございますけれども令和5年5月、一番右の棒グラフでございます、の外国人延べ宿泊者数、青色の部分になりますけれども、令和元年、同月比で98%。日本人を含めた全体、オレンジと青を含めたところで見ますと、令和元年同月比で95%とほぼコロナ前まで回復をしている状況でございます。

5 ページをお願いいたします。客室の稼働状況でございます。表をご覧ください。左端が令和元年となります。本県はコロナ前は東京、大阪に次ぐ3位という高い水準にございましたけれども、令和4年は23位と低迷。右端が直近の数値で令和5年4月、一番右でございます。は、9位となり、回復傾向は見られるものの、ビジネスホテル、それからシティホテルが大きく順位を落としておりまして、また旅館やリゾートホテルも低い状況が続いているところでございます。

6 ページをお願いいたします。観光客の分布状況です。棒グラフのですね、青の部分が福岡市、それから緑が北九州市となります。依然として左側2020年、右側2021年でございますけれども、来訪者、宿泊者ともに、両政令市、特に青色の福岡市に集中しているような状況でございます。

7 ページをお願いいたします。外国人入国者数の推移と、福岡空港における国際定期航空路線の状況でございます。左下の外国人入国者数を見ますと、赤枠で囲んでおります、最新の令和5年6月、2023年6月のですね、入国者数はコロナ前の約8割まで回復をしております。右側の福岡空港の国際線の状況につきましても、2023年7月時点では、2019年7月に比べて約9割まで戻っているような状況でございます。

8 ページをお願いいたします。宿泊業の労働生産性と雇用状況でございます。全国での指標となりますが、左下の折れ線グラフの通り、宿泊業の労働生産性は全産業より低い状態が続いております。

9 ページをお願いいたします。左の表の通り宿泊業の賃金も全産業平均よりも低水準が続き、右下のですね県内事業者アンケート調査においては3番目になりますけれども割合としては、一番多い20.3%でございますが、人材確保の支援を求める声が多い状況でございます。

10 ページをお願いいたします。今ですね、これまでご説明をいたしました、本県を取り巻く現状を踏まえた主な課題を整理させていただいております。

1点目、コロナが5類に分類変更され、宿泊者数や外国人入国者数は戻りつつあるが、さらなる受入環境の整備や需要喚起が必要ではないか。

2点目、旅行者は、両政令市に集中しており、引き続き県内各地を周遊させる取り組みが必要ではないか。

3点目、インバウンドは韓国など近隣国からのリピーター確保と、欧米豪など、長期滞在傾向に

ある遠方国からの誘客など、ターゲットに応じた戦略的プロモーションが必要ではないか。

4点目、観光関連産業はコロナの大きな打撃を受け、特に人材不足が課題となっており、人材の育成・確保、生産性の向上に向けた取り組みが必要ではないか、とさせていただいております。

後程行われます意見交換の際の参考としていただけると幸いです。

続きまして資料3「令和5年度における観光振興の取組状況について」をお願いいたします。

1ページをお願いいたします。令和5年度の観光振興事業につきましても、県主体事業として、指針にあります4つの施策の柱に沿って実施をしているところでございます。

2ページをお願いいたします。1つ目の柱「受入環境の充実」でございます。宿泊業における生産性向上の取組をですね、令和4年度に引き続き継続事業として実施をしているところでございます。専門アドバイザーによる、個別支援につきましては、令和5年度分として33件の申し込みをいただき、企業診断、業務効率化に向けたアドバイスを行っております。また、生産性向上に資する設備導入補助につきましては令和5年度で13件の申請をいただいているところでございます。

3ページをお願いいたします。M a a Sでございますね、モビリティアスアサービスを活用した観光客の周遊促進事業でございます。昨年の当審議会においても、「個人旅行化により、交通手段に悩む人が増えている」というご意見をいただき、本年度から新たに実施する事業でございます。

現在、本県の交通政策課が主体となって、「福岡M a a S実行委員会」というものを設置しております。その中で取組を進めているところでございますが、その中で観光振興といたしましてはですね、新たにM a a Sを活用した観光客の周遊促進を支援するため、M a a Sアプリへの観光情報掲載、企画乗車券の造成に対する支援を行っておるところでございます。令和5年度の新規事業でございます。具体的にはですね資料記載の通り、平成29年の九州北部豪雨で甚大な被害を被った、東峰村、添田町におきまして、本日の「B R Tひこぼしライン」の開業に合わせまして、M a a Sアプリ、「m y r o u t e」を活用したデジタル乗車券の販売を開始しておるところでございます。

このほかにも観光地へのアクセス向上を図るためのモビリティ等の導入実証実験について、関係市町村と協議を進めているところでございます。

また新規事業といたしまして、誰もが安心して県内各地を旅行できるよう、ユニバーサルツーリズムを実践する観光関連事業者を対象としたセミナーを開催したほか、アドバイザー派遣による伴走支援を行っているところでございます。加えて、今後、11月をめぐりに、福岡空港や博多駅におきまして、車いす・ベビーカーの貸出実証事業を実施するための準備を進めているところでございます。

また、関西圏を訪問した外国人旅行客を対象にしまして、新幹線を活用し、荷物を福岡県の宿泊施設に当日配送するサービスの実証実験を、J R西日本や経済団体等と連携し、実施する予定にしております。9月中にはですね、実証事業を開始できるよう、関係者で準備を進めているところでございます。

4ページをお願いいたします。2「観光資源の魅力向上」でございます。広域観光エリアにおける新たな観光地域づくりの取組といたしまして、県内6地域の広域観光エリアにおいて、体験プロ



グラムの開発や、食の新メニュー開発等を引き続き支援しております。

また、地域の特色を活かした資源開発や商品造成の補助事業といたしまして、古民家の改修など、個性ある宿泊施設整備に2件、体験プログラムの開発など、新たな観光地域づくり補助金に6件、合計8件ですね、補助申請を令和5年度としていただいております。

5ページをお願いいたします。福岡・大分デスティネーションキャンペーンに向けた観光資源の磨き上げでございます。「複数の市町村が連携して取り組む広域観光ルートの開発」といたしまして、表にあります通り5件の申請をいただいております。

このほかですね「市町村等が実施するデスティネーションキャンペーン特別イベントの開催」を支援するほか、本県の建築都市部など他部局とも連携をいたしまして、景観や自然等を活用した観光資源を開発しているところでございます。これらにより昨年度の審議会でもご意見をいただきました、長期滞在化やDC以降の体験プログラムの実施等にもつなげていく予定にしているところでございます。

6ページをお願いいたします。サイクルツーリズムの推進についてでございます。今年10月の6日から9日にかけて、国際サイクルレース「ツール・ド・九州2023」が、福岡、熊本、大分で初めて開催をされます。このレースを契機に、九州・山口でサイクリング周遊型旅行商品、「ディスカバー九州」を開発いたしまして、2月28日にですね、販売を開始したところでございます。現在ですね48コースを九州全体で、九州、山口、沖縄全体で、現在48コースを販売しております。そのうち福岡県関連では、日帰り商品として6商品、コースの一部に組み込まれた長期滞在型の商品といたしまして、5商品を販売しているところでございます。

また、サイクリングツアーに対応したガイド育成事業を新たに実施しております、11名の方にご参加をいただきました。うち8名が、日本サイクリングガイド協会の公認サイクリングガイドとして認定をされ、うち2名は最高位のガイドマスターとして認められているところでございます。

7ページをお願いいたします。3「効果的な情報発信」でございます。一つ、ここで資料の訂正をお願いしたいと思います。①「全国販売促進会議」の開催と記載をさせていただいておりますけれども、正式には「全国宣伝販売促進会議」の開催ということで、全国の後ろに、大変恐縮でございますが「宣伝」という文字を入れていただければというふうに思います。よろしく申し上げます。

福岡・大分DC実施に向けた観光事業の強化といたしまして、今年5月に全国宣伝販売促進会議を開催いたしまして、全国から旅行エージェントなど、477名の方にご参加をいただき、現在旅行商品を造成していただいております。年明けの1月ごろからはこれらの旅行商品が販売される見込みということになっております。

8ページをお願いいたします。国内誘客プロモーションといたしましては、「新たな福岡の避密の旅キャンペーン」を10月まで延長して実施をしているところでございます。観光客の需要の平準化を図るためですね、閑散期の平日における宿泊助成につきましては、現在実施時期について検討を行っているところでございます。

また、本県が強力に推進する、人と動物の健康とですね、環境の健全性の一つとする「ワンヘルス」、というものや、SDGs学習に対応した修学旅行商品の造成のため、旅行会社を対象としたモニターツアーを実施しております。

9ページをお願いいたします。「インバウンド需要の開拓」といたしまして、SNS等を活用したデジタルプロモーションを実施しております。また、コロナ禍においては実施ができていなかった海外旅行博や商談会等のリアルプロモーションを実施しております。

今月8日には、近年、本県との交流を深めているオーストラリアのシドニーで、現地旅行会社やメディアを対象に、観光セミナーを実施したところでございます。

10ページをお願いいたします。先月には、タイで活躍するアイドルグループを招請いたしまして、観光PR動画を撮影し、今後ですね、SNSで情報を発信していく予定にしております。ちなみにですねBNK48というのは、バンコクを中心に活動をしているグループ、CGM48につきましては、タイ北部、タイ第2の都市であるチェンマイを中心に活動をするグループの名称でございます。

それから首都圏等で実施する福岡県物産展において、新商品のトライアル販売や観光PR特設コーナーを新たに設置しまして、本県への誘客につなげて参りたいというふうに考えているところでございます。

11ページをお願いいたします。4「観光振興の体制強化」でございます。引き続き、DMO本登録に必要な専門人材の育成のため、「ふくおか観光地域づくり共創塾」を開講するとともに、ワンストップ支援窓口を設置しております。

また、資料に記載はございませんけれども、審議会でご意見のありました、民間との連携ということで、DMOと、異業種や、県外の事業者とのマッチングによる、協業促進事業の準備を新規事業として準備を行っているところでございます。

12ページをお願いいたします。「宿泊、飲食事業者の人材育成事業」といたしまして、ハラルやヴィーガンといった多様な食文化の普及啓発や、メニュー開発に向けた個別相談等の支援を、今月末より実施する予定にしております。

13ページをお願いいたします。今ご説明申し上げました事業につきましてはそのほとんどに宿泊税が活用されているところでございます。令和2年度の宿泊税導入から3年が経過したため、今年の5月に検討委員会を設置いたしまして、審議会委員で本日もご出席をいただいております一部委員にも参加いただいているところでございます。条例の施行状況や、税のあり方についてご議論をいただき、現在、報告書（案）につきまして、パブリックコメントを実施しているところでございます。

議論の方向性といたしましては、中段に記載しております通り、1点目、3年間の取り組みは一定の評価できること。2点目、引き続き観光振興に取り組むには、財源として宿泊税は必要であること。3点目、直ちに税制度を変更しなければならない状態にあるとは言いがたく、現行の制度を維持することが適当であること。とされておるところでございます。

なお、観光施策に対するご意見といたしまして、宿泊税検討委員会においても意見をいただいておりますので、ご紹介をさせていただきます。一番下の枠組みでございます。1点目、受入環境整備はまだまだ行き渡っておらず、継続して実施する必要がある。2点目、DESTINATIONキャンペーンなど、観光関連産業が一体となっていく事業に、宿泊税を大いに活用すべき。3点目、観光振興のカギは、おもてなしと言われるけれども、生産性向上とは相反するものだと。そのためこ

れを解消するような新たなおもてなしのカタチを検討してはどうか。といったご意見をいただいております。

続きまして長くなりまして恐縮ですけれども資料4「第二次観光振興指針期間中の主な施策について」ご説明をさせていただきたいというふうに思います。

先ほど令和5年度の取り組み状況についてご説明をさせていただきましたけれども、この資料4はですね、指針の初年度である令和2年度から昨年令和4年度までの3年間で実施した主な施策をまとめたものでございます。

1枚おめくりいただき、主な施策について①をお願いいたします。「受入環境の充実」でございます。令和3年度に宿泊業における受け入れ対応強化として、バリアフリー化や多言語案内、情報発信等、239件支援をさせていただいたところでございます。また、多言語対応のコールセンターを24時間365日運営し、昨年度は915件の利用をいただいたところでございます。

次ページをお願いいたします。令和4年度に、宿泊事業者の生産性向上の取り組みを支援いたしました。宿泊事業専門アドバイザーを派遣いたしまして、業務効率化など、令和4年度は計38件の個別経営支援を行うとともに、21件の設備導入等に対する補助を行いました。令和5年度とですね合算いたしますと、アドバイザー派遣につきましては71件、補助事業に関しては34件のご利用という形になっておるところでございます。

次ページをお願いいたします。2「観光資源の魅力向上」でございます。令和2年度から4年度にかけてまして県内6地域の広域観光エリアにおいて資源開発や商品造成の支援を行いました。体験プログラムの開発等37件、古民家の改修やグランピングの整備改修等6件、3年間で合計43件の補助を行ったところでございます。

1ページおめくり願います。「サイクルツーリズムの推進」でございます。令和2年度からの3年間で県内10の広域モデルルートにおきまして、ピクトグラムの路面表示や案内看板を設置するなど、ルートの整備を行ったところでございます。

サイクルツーリズムが盛んな台湾からは、現地サイクリング協会や旅行会社の方9名を招聘し、モニターツアーを実施いたしました。

またサイクルツーリズムを通し、新たな旅行需要を創出するため、バス等において、自転車を積載して走行可能とする事業等にかかる費用につきまして、6件の支援を行ったところでございます。

次のページをお願いいたします。3「効果的な情報発信」でございます。令和4年度に、福岡・大分デスティネーションキャンペーンに向け、県の観光情報サイトを全面的に改修しております。

また広域エリアのプロモーションの強化といたしまして、「じゃらん」のサイト内に県内6エリアで体験できるプログラム等の情報をワンストップで提供可能な「新しい「ふくおかあそび）」というサイトを開設したところでございます。

インバウンドにつきましては中国向けに、現地のSNSである、「Wechat」や、「Weibo」また、台湾・香港・欧米豪向けには「Facebook」を活用するなど、デジタルプロモーションを実施してきたところでございます。

1枚おめくりください。「観光キャンペーンの実施」についてでございます。県ではコロナから

の観光需要の回復と、地域の活性化を図るため、令和2年度からですね、宿泊助成キャンペーンを実施して参りました。内容は一覧表の通りとなっております。

なお、記載にはございませんけれども修学旅行需要の回復に向けたキャンペーンを実施いたしまして、バスの借上料を助成しております。令和2年度から令和4年度の3年間で2,566台分のバスの助成を行ったところで、令和5年度につきましても、今時点で569台分の助成の申請をいただいているところでございます。

1枚おめくり願います。4「観光振興の体制強化」でございます。県内各地域の観光を支える人材の育成を行い、令和2年からの3年間で「観光ボランティアガイドリーダー育成研修」に延べ330名、観光案内所スタッフの育成を図る「地域観光コンシェルジュ育成研修」におきましては延べ514名の方々に参加をいただきました。また、「宿泊者施設おもてなし向上研修」には、延べ1,071名、「観光地域飲食店研修」には、延べ192店舗が参加をされているところでございます。

次のページをお願いいたします。観光団体のDMO化を加速するためDMO本登録に必要な専門人材の育成講座として、「ふくおか観光地域づくり共創塾」を開講し、令和3年度からの2年間で延べ68名の方が受講されました。

また、DMO登録要件等に関する相談指導を行うワンストップ支援窓口を設置し、課題内容に応じた専門家を派遣、2年間で10団体を支援しておるところでございます。

次のページをお願いいたします。観光ビッグデータを活用した旅行実態の把握に努めたところでございます。携帯の基地局情報を活用した「モバイル空間統計」による人流の把握に加え、令和4年度には、認知度調査や、SNSの投稿から、観光客のトレンドを分析するなどの調査を実施したところでございます。

次のページをお願いいたします。5「市町村への財政的支援」ということで、令和2年度から宿泊税交付金を県内市町村に対し交付をしております。地域の実情を踏まえ、創意工夫を凝らした施策の推進を後押ししているところでございます。

長くなりましたが、説明は以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

(会長)

はい。今、事務局から資料の2から4についての説明がございました。

各委員からのご意見につきましては、次の議題3でお聞きしたいと思いますので、まずは説明の内容について、何かご不明な点、ご質問等がございましたら確認したいと思います。

ご質問等ある方は挙手の上ご発言をよろしくお願いいたします。

(挙手無し)

盛り沢山でなかなか大変ですね。意見を言いながら、また確認するところも出てくるかと思いますが、オンラインの方もよろしいですか。

はい。何か欠席されている方からご質問はありますか。

(事務局)

はい。欠席されている委員からもご質問はございません。

(会長)

わかりました。

それでは議題3の方に参りたいと思います。よろしゅうございますでしょうか。

### 議題3 第三次福岡県観光振興指針策定に向けた意見聴取

(会長)

それでは議題の3「第三次福岡県観光振興指針策定に向けた意見聴取」についてでございます。

冒頭の議題1のスケジュールでもございました通り、今年度の観光審議会では、次期福岡県観光振興指針についての審議が大きな審議事項でございます。アフターコロナ、ウィズコロナにおける県の施策の方向性や取り組みの基本となるものでありますので、非常に重要なものであると認識をいたしております。委員の皆様から、忌憚のないご意見を賜りまして、次期観光振興指針がよりよいものとなるように努めて参りたいと考えておりますので、皆様のご協力の方をよろしくお願いいたします。ここからの議事の進め方でございますが、皆様から少しずつご意見いただきたいというふうに思っておりますので、大変僭越ながらまず副会長から順にですね、お話をさせていただければと、ご意見をいただければというふうに思っております。また、欠席されている委員の方からも意見がありましたら、事務局の方からご紹介いただければと思います。その後、各人ご意見賜った後にですね、時間を見ながら、自由な意見交換という形で進めさせていただきたいと思っておりますがよろしゅうございますでしょうか。

副会長の方からよろしくお願ひいたします。

(副会長)

説明どうもありがとうございました。

私からは、主に、3点申し上げたいと思います。

まず一つ目は、まず資料3の1ページ目のちょっと大きな全体図を見ながら話しをさせていただきます。まず、2番目の観光資源の魅力向上というところで、やはりいろんな、自治体を回っているところなどいろんな工夫をされて、それぞれの地域が頑張っているというのを見ます。ですので、やはりこの中で指摘されていますように引き続き、こういった自治体さんでの取り組みをどういうふうにまとめていくか、テーマでつないでいくかっていうことが、やはり県の一つの役割じゃないかなというふうに思いますので、この辺りは今後も強化していただいて。特につなぐっていうソフト的なものもあると思うんですけども、その交通面っていうのがやはり大きな課題になっているかと思っております。Ma a Sなんかも出てきますけどまだまだ体系的に、利用者の目線で使いやすいものになっているかっていうとまだまだですので、今後、その辺りが一つ、引き続き大きな課題になってくるかと思っております。こちらが1点目、

二つ目がそれに関しても関連するんですけど、2番目の観光資源の魅力向上のサイクルツーリズム

ムのところですか。ここは個人的にもですね。すごく機運が高まっているコンテンツじゃないかなというふうに思います。もちろんツール・ド・九州もありまして、九州でサイクリングっていうことをイメージする、すごく大きなきっかけになると思いますし、またインバウンドとかいろいろな流れ、戻りの流れみたいなもの考えたときに、このコンテンツっていうのは、これから今土壌が整ったところで、この次、より戦略的に展開していくことにいろんな可能性があるのではないかなというふうに考えました。

例えばその、福岡のサイクリングのメリットっていうのを考えたときに、イメージ的にやっぱ南九州とか阿蘇とか、そのあたりが、サイクリングのイメージつきやすいんですけど、福岡のサイクリングのメリットっていうと都市から近く、そんなにサイクリストのガッツリした人じゃなくても、気軽にちょっとやっていける。チャレンジできるようなところが一つ魅力じゃないかなと思っていて、今後そのツール・ド・九州をきっかけにこういうそういう方が増えてくると思うのですよね。なのでそのあたりの差別化とか、福岡のサイクリングのメリットとか、あと、他のコンテンツの組み合わせであるとかあとは二次交通の意味でもサイクリングっていうのを結構、組み合わせを考えていけると思いますので、この辺りが今後ですね、よりターゲットを絞って、戦略的に展開できる可能性があるというふうに思いました。

三つ目は最後やっぱり人材育成の特に人材不足のところ、やはり宿泊税の会議に出ているときも、そういった意見もすごくありましたし、とにかくそこはこれから観光を振興してく上での、非常に一番の土台となるところで、ここはすごく今後も重要な政策となってくると思います。具体的なことはまだこれからだと思いますけれども、受入環境の充実のところ、生産性の向上のいろんな取り組みをされていますけれども、ここをもう少しこうもう一歩踏み込んで、人材不足の実態に合わせて、より効果的に生産性を上げる方法みたいなところを、1回ちょっと調査みたいなより踏み込んでされて、それに基づいてやっていく必要が、やっていくとより効果が見えてくるのではないかなと思います。なかなか生産性向上のいろんな取り組みされていますけど、それイコール人を雇えるかっていう余裕に繋がってくるかっていうとなかなかそこがまだ難しいのではないかなというふうに思いますので、そのあたりの調査とか、踏まえた上での根本的のところを見ていただく。

あともう一つ、最後ですけども、前もここで申し上げましたけれども、長期的な視点でいうと、やはり観光教育とか、そういったことで教育機関とかあるいは高校の商業科で、観光学の授業なんかも始まったところもありますのでそういったところとも何かこう長期的な視点で、観光への仕事みたいなところで、観光教育みたいなところが、何かできたらいいのではないかなというふうに思います。以上でございます。

(委員)

今、事務局からですねいろいろ資料についてのご説明がございました。

この意見ということで、改めてといいますか、資料2の5ページ。やはり宿泊税の検討委員等もやらせていただいております、宿泊事業者ということもありまして、改めてですね、この資料2の5ページの、2019年から20年、21年、22年という状況をですね、福岡県の現状はこれほどまでに来訪客が落ちて、そして宿泊施設の稼働率が極めて悪いと。非常に厳しかったというこ

とがございます。

この中で改めて、先ほど会長からのご発言に、ご挨拶ありましたとおりコロナが2類から5類になってですね、ようやくこの年が明けて春先ぐらいからですね、需要喚起策等の効果もありながら、少しずつ盛り返しているというようなことでございます。

その中で資料3にございますとおり様々な施策を打っていただいているということでございますけれども、この中でやっぱり福岡県全体を考えると、よく県議会議員の先生方と話す中で、福岡県の均衡ある発展ということで、宿泊税も、もうご承知のとおり、福岡県、福岡市、北九州市ということで、課税を政令市と福岡県ということでやっておりますけれども、どうしても宿泊施設が、福岡市に偏っているというところでこういった資料2の6ページ、こういった形になっておるのが事実でございますが、今事務局のお話にありまして、どうやって福岡市に呼び込むか、そして北九州も入ってくるか、ただ、筑後地区、あるいは筑豊地区とかですねBRTの問題もございましたけど、昨日大きなイベントが東峰村でございましたが、そういった形でどうやって福岡県の均衡ある発展のために、観光者数を伸ばしながらも、いろんなところにお金が落ちていくのか。こういったことをしっかりとしなければ、より一層福岡市とその他の市町村の格差が広がるということに危機感を抱いております。

もう一つ、昨日沖縄で、岸田総理が言っていた、オーバーツーリズムということの話が出ましたが、これも大きな意味で私も以前いろいろな東京のほうにも行ってですね、非常に観光客の、観光地の状況ですね、コロナが明けてから、非常にまだまだであると。来る地域にはたくさん来る。地元住民がもう来ないでいいというぐらい人が来て、来て欲しいところには来ないというのが今、全国的な悩みだと思いますし、我が県もそういったことからすると同じような状況かと思えます。確かにホテルの客室数が増えて、特に福岡市はこれをどうやって埋めていくのかっていうのも課題になっていると思いますけれども、それ以上に福岡県のそれぞれの市町村、事務局の説明にあった宿泊税を元に交付する配布するということがございますけれども、それも果たして全部行き届いているのかっていうこともありますから、そういったことも念頭を置きながら、次のこのコロナで悲惨な状況、需要の創出ということで、観光、宿泊、交通、様々な事業者が傷んでいることを今一度、頭に置きながら、委員から出ましたが人手不足ですね。私ども宿泊業界も試験センター等を設けているいろいろな試験をこれから展開して、マッチングするというような形で取り組んで参りますけれども、人手不足も配慮しながら、しっかりとこの「持続可能な観光先進県」ですか。その実現に福岡県が寄与していくということで、望ましいなと思われるのが一番であるというふうに思っております。私からは意見以上でございます。ありがとうございます。

(委員)

私からはインバウンド回復の影響という観点から2点申し上げたいと思います。

1点目は、最近中国が団体旅行を解禁して、いよいよ本格的なインバウンド需要の回復が見込まれるということで、先日の福島県での処理水の放出に中国が敏感に反応しているという報道がされています。インバウンドに関しても、どの程度影響があるのかということをしつかりと注視していかなければならないと思います。

2点目は、資料2の7ページにも記載がある通り、福岡県の場合は韓国のシェアが多い状況が続いているかと思えます。韓国に関しては、滞在日数の短さ、また、それに伴う消費単価の低さが今まで課題だったと思うのですが、我々が最近実施した調査やヒアリングによると、韓国の方は、旅行時や訪日時にこだわりがあるものには消費を惜しまないという傾向もあるようです。端的に言うとメリハリ消費という形で、なんでも安く済ませたいとか、なんでも高級な旅にしたいというよりは、ちゃんと自分たちが使いたいところ、関心を持っているところにお金をたくさん使いたいという傾向もあるようです。韓国の方のこういった消費傾向を捉えて、どうやったら韓国の方に高付加価値、お金を払っていただけるコンテンツを用意できるのかというあたりを掘り下げることで、韓国の方の消費単価、また、インバウンド市場において韓国の方のシェアが大きい福岡県の消費額増につながるのではないかと思います。

(委員)

私からは、デジタルという観点で、2点ほど共有ができればと思います。

一つ目はですね今後のKPIの考え方というところですけど、情報発信についての部分になります。今SNSのフォロワーのプラスってところや、そこでの情報発信というところにこれまでご注力いただいていたかと、説明を受けて認識をしているのですが、今後に向けてはですね、インバウンドだったりとか、国内旅行、少しずつ回復した傾向があるというところも鑑みて、ユニークリーチ数というか、どれだけその情報発信の結果によって、どれだけ多くのユニークなユーザーにリーチすることができたのか。というところも併せて考えていただくといいかなと思ったところでした。

どうしてもそのSNSっていうところでいくと、例えば50万人フォロワーがいますというとき、発信した結果、その50万人にしか情報発信することができないので、新しいユーザーに福岡の魅力を発信するってところが、なかなかそこではなくどちらかというロイヤリティを高めるってところがSNSの得意分野でもありますので、これまでロイヤリティの高いユーザーにしっかり配信をし、ファンを維持し続けるっていう活動をしっかりいただいたので、これに追加する形で、よりファンを増やすためにというところで、どれだけの人にリーチすることができたかというところの指標を設けていただくといいかなというふうに思った次第でした。

ただ相反することをこれから申し上げるのですが、先ほどオーバーツーリズムの指摘もあった通り、多くの人に当たれば当たるほど、多くの人が来れば来だけいいというわけではないと思うので、JNTOが出しているような、本当に高付加価値旅行者に対して、どれだけリーチしていくことができるのかというところも、ぜひ知っていただく併せて良いかなと思います。

資料2のところ、今後に向けて、例えばアジアだけではなく欧米豪で、高付加価値となる旅行者に対して、ターゲット別に、情報発信をしていく必要があるというふうに課題感すでに示されていますので、まずそこをきちっと実施いただくってところになるかと思えます。先ほど社内のグーグル検索でですね、福岡の旅行に関しての検索数が直近どの国から伸びているのかなというふうに見たところ、アジアもちろんしっかりと伸びているのですけれども、例えば欧米豪でいくと、アメリカはしっかりと伸びてきていたりとか、イギリスとか、昨年対比で158%検索指数が



伸びていて、今年に入っても8%伸び続けているっていうところがあるので、新しい指標に、さらに認知だったりとか、ロイヤリティをあげていくっていう時は、いくつかしっかりデータに基づいて指標を、何でもかんでもっていうよりはいくつか設定した上で、ユニークなリーチ数を広げ、その質としても高付加価値なユーザーにしっかりリーチしていくところを意識いただくっていうところを意識高くというのが、今後に向けては一つの指標として思っていたくといいかないかなと思ったのが1点目でした。

二つ目の部分が体制整備、教育の部分になるのですけれども、もうすでに多くの事業者さんに、いろいろな教育コンテンツを提供されているかと思いますが、追加する形で、デジタルのリテラシーみたいなところを、観光に関わる事業者さんにより多く提供いただくっていうところを、特にインバウンド復活に向けて実施されるといいかなと思います。

特に本当に外国の方たちは言語の壁もありますので、事前に8割ぐらいがオンラインで情報を調べて交通手段だったりとか、お店の時間等を調べていらっしゃるというようなデータが観光庁からも公開されていますが、やっぱり調べようと思ったときに口コミとかも、日本人のように共有されていない中で、デジタル上にしっかりと経路だったりとか、お店の時間だったりとか、観光コンテンツのデータがそろっているっていうところが、すごく重要になってきます。

福岡市内だけではなく多くの地域に訪問して欲しいという前提を踏まえた上で、そういった地域に関してもしっかりデジタル上に、そういった事業者さんや、観光施設の情報がそろっているという状態を整備していくことが重要かなと思いますので、なかなか新しいデジタルの情報の掲載に向けて、やり方がわからないとか、まだまだ必要性が感じられてないよっていう事業者さんが多いのも事実かと思うんですが、その意識の喚起と共に、やり方の伝授というところは、併せて特にインバウンド復活に向けてはデジタルを観光のもてなしっていうところの教育コンテンツっていうところの追加はぜひしていただけるとよりいいかなと思った次第でした。以上です。

(委員)

私からは、三つに分けて、お話ししたいと思います。

まず、人材確保というところで、皆さん宿泊業の皆さん、私どももちろんそうなんですけど、人材不足に困っておりまして、人をおそらく雇えない、募集かけてもこない。で、だとしたら、いる人材を教育するという流れになるかと思うのですが、ただそのいる人材も今いっぱいいっぱい、私たちがそうです、教育時間がなかなか取れないということなので、どこにその重きを置いてやるかということが重要かなと思っています。例えば学生さん、観光の専門学校に行っている学生さんとかを、事前にアルバイトでやっていただく制度を確立するですとか、実際、専門学校生、来年卒業の専門学校生に、駅でアルバイトで働いてもらっています。非常に素晴らしい。やったことあるのかなと思うぐらい、すぐてきぱきと動きますし、事前の勉強になるということで非常にやる気を持って働いてくれています。そういう方々の活用を、もっともっとやっていけるような支援をするですとか、今まで通りにやっても人は急に生み出されませんので、そのところをどういうふうにするのかという具体策が、やっぱり宿泊業の方々がどんなところに困っていらっしゃるのかその優先順位をつけて、細かくやっていくことが必要かなとも、そういう段階に来ているんじゃない

かなというふうに考えました。

それから、インバウンドなんですけど、ジャパンレールパスの値上げが、10月から大幅値上げでございます。一方で、例えばJR九州のレールパスですとか、そういった地方限定のものは、そこまで大きな値上げではございません。値上げはいたしますけれども、そこまで大きな値上げではないということを考えますと、チャンスかなと。地方にとってはチャンスかなというふうに思っています。特にJR九州レールパスご利用の方は、結構福岡に拠点を置いて、九州を回るという方多くて、日帰りで九州回ってきて、泊まりはずっと福岡だよ。みたいな方も多いので、そういった方、そして、リピーターの方も多いです。そういった方々を、福岡市内がいっぱいだとしたら、どういうふうに、他地域にも拠点を持っていただけたらいいか。他地域、もう基本的には滞在型のような考え方でいいと思うんですね。そこを拠点に回っていただくということでその方たちにどうそれをアプローチしていくのかというのが、今後のその数少ない宿泊、もう部屋数限られていますので、そこをどう空けていくか、そして、より多くのところが潤うようにするにはどうしたらいいかということを考えなければいけないときかなというふうに思います。

それから、次の考え方なんですけれども、資料2の10ページに課題を書いていたかと思っております。この課題通りだなというふうに思っています、本当にやることを、国内のお客様そしてインバウンドのお客様でターゲット別に、リピーター、新規、リピーターだったらもう滞在型にどう誘導していくかということだと思っておりますし、国内も、富裕層向け、一般向けみたいなことで、ターゲット別にやることを明確にしていくことによってKPIを分けることに意味が出てくるんじゃないかなというふうに思います。私からは以上です。

(委員)

今回初めて参加させていただきまして、大変たくさんテーマで、まだまだ追いついていない部分がございますが、感じるころ2点、申し上げたいと思います。

1点目は、他委員もおっしゃられたような、やはり雇用、これ今回この資料2の9ページには宿泊業というふうに出ておりますが、宿泊業以外の観光業、これ全体を通しましてもプレイヤー不足、その根本の一つっていうのは、労働生産性ということをよく言われるんですが、この労働生産性をどう上げるかっていうのは、この体制の問題もありますし、この業界の構造の問題、いろいろなところに深く踏み込んでいかなければならない。

それとこの観光業が、今から働こうという学生にとって魅力的な業界なのか。まずはその魅力性を打ち出すことも同時に必要なかなというふうに思っています。本当に今例えば修学旅行、これ全国同じなんですけど、バスが足りない。バスが足りないというよりは、ドライバー、バスガイドがない。ですから、結構大型な学校で修学旅行に行きまして、現地でタクシー観光するという学校も、これはもう仕方ない選択として出ておりますし、また、これは福岡市内、特にタクシー、イベントがあるときってまずタクシーを捕まえることができない。これも、タクシーのドライバーさんの雇用がやはり確保できないということをよくお伺いします。

そのために何をするか、これすぐすぐにはできないことだと思いますが、観光業界全体として、やはりコツコツと、一朝一夕ではできないと思いますが、いろんな施策を打っていくということが

必要なのかなというふうに思っております。

あと2点目でございますが、この中には特別に言葉としては記載されておりませんが、我々旅行者にとりましては、観光は基本的にツーウェイでございます。ワンウェイの観光というのはなかなかございませんし、どうしても、この福岡県の観光振興ということであれば、インバウンドという言葉が多用されておりますが、ある意味、アウトバウンド、例えば福岡市の住民の方が、柳川に行くってこれ、ある側面アウトバウンドでございますし、福岡・大分DC、多分大分の方は福岡からの、インバウンドを一番求めてらっしゃる。福岡県はもう逆に、そういう意味では、大分のインバウンド、これツーウェイでできることっていうのをもっともっと打ち出すべきのかなと思っております。

また我々、やはりワンウェイでは、なかなかこの業界を支えることができない。やはりツーウェイという意識と、何か言葉としては、そのツーウェイの観光という部分を入れていただければというふうに思います。以上でございます。

(委員)

私の方からも3点、意見とちょっと感想みたいなところもあるんですけども、お伝えできたらと思います。

施策の柱に沿ってお伝えさせていただきますと、一つ、受入環境の充実みたいなところですね、第三次の観光指針でご検討されているかもしれないのですが、まさにインバウンドが戻ってきて、インバウンドの方を受け入れるにあたってはですねやっぱりこうキャッシュレスみたいなところの敷設っていうのは非常に大事なかなと思っております。特に、福岡市内から各6エリアに周遊させるといった時に、現状の6エリアのですね、キャッシュレス状況っていうのが、おそらくですね、まだ迎え入れる状態になっていないのかなと思っておりますので、何かこう、来期のですね、計画の中には、そちらを入れて、もし可能であればKPIとか、設定すると良いのかなと思しました。

二つ目はですね、効果的な情報発信のところ、こちらですね、現在の取り組みの中でGPS情報を用いた来訪者分析、みたいなことを実施されておりますが、もしかしたらこれも取り組まれているかもしれないのですが、今後に関しては、インバウンドのこう、動態みたいなもの、調査、獲得することによって、国内とですね、異なるインバウンドの方がですねどういうルートを求めているかとかですね、そういったものを確認した上での施策プロモーションみたいな実施をすると良いかなと考えました。

三つ目はですね、観光振興の体制強化の中で、こちら各委員の皆さんもお話されていましたが、やっぱりこう人材の確保みたいなことは非常に大切なことだと思っております。一つ生産性向上によってですね、働きやすい環境を作るということも大事だと思うのですが、一方でですね、やはり採用みたいなことをしていかなないと、母数が増えていかなければと思っております。今、我々も実証実験的に取り組んでいる部分があるのですが、業務もですね、一通りずっと従事するような形ではなく、切り分けながら、業務を発注することによって、少しの時間だったら働けるよとかですね、地域の中で眠っている人材を生かすみたいなことを、何かこう取組検討されてもいいのかなと考えました。私からは以上になります。

(委員)

いくつかありますけれども、私はマネジメント視点で確認をしたいと思います。

最初に、K P I が資料の冒頭に提示されましたが、ちなみに例えば延べ宿泊者とか、消費単価とか外国人の枠がありますけれども、これの国別とかエリア別に細分化された目標値は存在するのでしょうか。

(事務局)

今、この第二次観光指針の中において、国別で別途目標値を立てている状況ではございません。

(委員)

多分、これからの施策に関しても、今後の施策に関しても、そういった細分化した目標値がなければ結局それぞれの施策の評価ができないはずなんです。

さっきのサイクルツーリズム、アジア圏とか、欧米豪の今まで少なかった人をより誘客しましょうといったアイテムがあったかと思うんですけれども、その単位で見ない限り、その施策をやった結果どうだったかというのが多分評価できないはずなんですよね。

例として、外国人を出しましたけれども、多分国内でも同じだと思います。マーケットセグメント毎に合わせて、どういうことをやります、その結果どうなりましたかというの見ない限り、様々な4つの柱に基づいた施策が今までされて、多分今後もされていくかと思うんですけれども、それでどうなったんですかというのが、K P I で伸びた伸びてないという話になると結局評価ができないというのが続いてしまうので、もうひと精度を上げられることができればより確実な成果につながってくるというところを留意すべきではないかと思います。

同時にこれに関連するのですが、今並んでいるいろいろな施策ですね、やってどうなるのか、今までやった結果どうなったのか、少し疑問に感じる点もあって、できていないというつもりではありませんが、例えば、DMOの組織を何件か作りましょう、支援案件がいくつとありましたけれども、DMO作っても地域良くなるかというのが通性なんですよね。今、二百六十いくつ全国にあって、できてないから観光庁も困って先駆的DMOを集めて世界的に目指しましょうみたいな話もあって、その事務局と支援専門家のさらなるアドバイザーが先々週に決まったのですけれども。

今なぜ観光庁がそういうことに着目しているかというのと、二百六十いくつ作っても、思っていた機能が果たせていないという課題意識があるんですね。なのでやはりそのDMO作ったからといって地域のマネジメントとマーケティングの機能の強化ができるという話ではないので、件数を測っているだけだと福岡県の県政にあまり寄与しないのではないかという提起を一つさせていただきます。

それ以外にも、先ほど人材育成のボランティアガイドリーダー延べ何人、食のやつは千人以上溜まっていますというような話がありましたが、最後K P I にどうつながっているのか、満足度向上に寄与しているのか、先ほどの新たなマーケット戦略に寄与したのか、最初のうちは人数で見てもいいかもしれないけれど、そのあと育てられた人がどう活躍しているのかというところが併せて見

ていかないと、延べ人数だとどんどん増えていって、増えたから政策をポジティブに評価するということではいいかもしれませんが、福岡県のデスティネーションに寄与する政策になっているのか、もしくは来る人の満足度に寄与する、もしくは先ほどほかの委員の方も言っていた地域の産業として雇用の受け皿となる産業に遷移しているのかということを見たい。その精度アップができるとより良い計画になるかと思います。

(委員)

私たちの今の状況も含めていくつか共有させていただきたいと思うのですが、まず八女市だけで言いますと、コロナ中に宿泊施設が三つできまして、町一体となって町家を改修した、分散型の宿泊施設という形で私たち、弊社も含めて、私たちは3部屋のみなんですけれども、今計15室、町にあります。コロナ中でしたので当然当初は国内の方がメインだったんですけれども、昨年の12月あたりから一気に海外の方が増えました。私たちの施設だけで言いますと、春とか秋とかの繁忙期に関しては、6~7割は海外のお客様になっています。国籍も本当に様々で、台湾が一番多いのですが、アメリカもそれに次いで多いですし、オーストラリアだったりフランスだったり、あとタイからも結構何件が来られたりとかしております。かなりちょっと、当初想定していたアジア圏の方が多くなるのかなと思っていたのとちょっと、嬉しい結果だとは思っているんですけれども、わざわざ八女まで来る方が結構いらっしゃったということです。

お話していると、皆さんあんまり日本の方みたいですね、福岡と筑後とかそういうのが、福岡地域との距離感がわからないので、ある意味、八女は福岡空港から1時間の場所だから、拠点として使っていただいたりとか、クラフトっていう、「Craft Inn 手」という名目の宿でやっていますので、やっぱりクラフト好きの方がですね、ピンポイントに来てくださるっていう感じで、あんまり日本の方とのなんていうか、地域、距離感の考え方が違うので、すごい、ある意味そこはチャンスなのかなというふうに思っております。

あとですね結構、旅行会社もさせていただいているんですけれども、海外の特にアメリカが多いんですけど、旅行会社で小さなコーディネートされているところとか、ちょっと大きめのところまで、今京都がですね、やっぱりすごいオーバーツーリズムでお客様もすごい増えていてもうちょっと、本当の日本を知りたいだったりとか、少し人が少ないところだったりとかっていうのに興味を持たれて、今までその京都文教あたりをメインにされてきた旅行会社さんから、九州のコンテンツをもっと増やしたいっていうような感じのリクエストがこちらから働きかけずにも結構、立て続けにここ最近多くありまして、もちろん超小規模なので、全体で言ったら小さな数だとは思いますが、この兆候自体はすごい今福岡にとったら大チャンスなんじゃないかなと私は個人的にはすごく感じています。という中で、今年度、2023年の宿泊者とか県内の方がデータとしてもどう出てくるのか非常に興味深いというふうに思っております。それをまた分析してから今後どうしていくのかっていうことにはつながってくるのかなとは思っているんですけれども、施策として、そういった、インバウンドに関して言えば旅行会社の方向けに実際視察に来ていただくとか、そういったちょっと開発というか投資というかですね、そういうのもやっていくと、なんか今いいタイミングなのかなとは思ったりすることはあります。

あと、福岡地域はすごく充実していると思うんですけども、筑後地域とか、他のより地方の地域ですね、やっぱり皆さんその距離感がないので、駅まで来るんだけどそこからタクシーとか、路線バスとかっていうところになってきます。当然結構単価が高いお客様が多いので、自分でタクシーを何十分でも乗るみたいな方が多いんですけども、そこもやっぱり交通の動線の英語の案内が少ないというところがあったりとか、皆さんグーグルマップで調べて自分で自力でこられるんですけども、何かこう、そこももう少し、動きやすさをサポートしてあげるみたいなところは福岡以外の地域に関してはまだまだ必要なのではないかなというふうに感じています。

あとですね情報発信に関しても皆さんも今ご指摘ずっとありましたが、ちょっとK P Iの設定のところが県のホームページだったりとかSNSっていうところが基準になっているっていうところで、これから、よりそのターゲットを決めて、発信していかれるのであれば例えば福岡に来られる方でもそのアウトドアしたいっていうお客様とクラブが見たいっていうお客様と全然ターゲットが違うのかなと思いますので、そういったところの、例えばより専門性の高いSNSを運営されているような団体とコラボをするだったりとか、そちらに掲載してもらってその効果を測る、増やすだったりとか、ビッグデータもすでに分析等はされているようなので、そのビッグデータからの結果みたいなところがK P Iに入れられないのかなというふうにはちょっと素人ながら拝見して思いました。何かもう少し、もちろん素晴らしい発信をされてると思うので、そこも大きな基準の一つだとは思うんですけども、よりこれからターゲット合わせていくなら他の媒体だったりとかっていうのの伸びみたいなのところも図れたりするとよりいいのかなというふうに拝見して思いました。

もう1個だけすいません。ハラルとかヴィーガンのお客様っていうのもすごく多い、そんな多くはないんですけど、やっぱり時たまリクエストいただくことがありまして、私たちはなるべく対応するようにしてるんですけども、1件ですれ対応しきれなかったお問い合わせが、コーシャですね、ユダヤ系の方の問い合わせがですね、150名か200名ぐらいを福岡でコンベンションみたいな形で滞在させたいということで、もう福岡の大手のホテルさん皆さんかけ合われたんですけども、コーシャだけはちょっと厳しすぎるだったりとか、キッチンにまで入って審査を受けないと、ユダヤ教の戒律の厳しい方たちは泊まれないみたいでして、そういった資格を取得するお手伝いっていうところを、行政の方でしていただけたらすると、私たちは対応できないんですけども、せっかくそういった需要があるのに、エリアとして受け入れられないっていうのはちょっともったいないなというふうに、そういったお問い合わせありましたという、すいません、ちょっとした共有でした。以上です。

(会長)

はい。ありがとうございます。

一通り、私は除いて、ご意見が出ておりますので、もう、ほとんど皆さんのすばらしい示唆に富むご意見が出てるので特に私の方からはないのでですけども、令和5年度の取り組みでやられますいわゆる、M a a Sを使った観光の取り組みですね、やはりお話を聞いているとどうしても地方へいろいろ分散させていく、観光客を、という流れになると二次交通というところのお話がたく

さん出て参りますので、そのM a a Sをいかにこう活用しやすくしていくかっていう取り組みをですねぜひ、もう福岡県さんかなり旗振ってやっていただいているんですけども、その取り組みをぜひさらに推進していただくことが大事かなと、その中で、先ほど外国人もわかりやすい交通体系の表示だとか、そういった物理的な表示は、当然大都市部ではやりやすいのですが地方ではなかなか行き届かないというのが現実なので、そういったものをカバーしていくのは多分M a a Sアプリの世界だったり、そういったことになるのでしょうから、そこで多言語化がちゃんとしていくとかですね。新しいM a a Sアプリの選定がこれから始まると聞いていますので、その様式として当然多言語対応していくんでしょうけども、そういった視点もきちんと見ていかなきゃいけないのかなと思いつながりながら聞いていたところです。

あとあわせてあとキャッシュレスだとか、あと周遊型の先ほどのレールウェイパスの話もあったんですけど当然そういったものもこのM a a Sアプリ中の電子デジタル化してやっていくっていうことになるのでしょうから、そういった周遊型とキャッシュレスに関する初期導入コストだったり、そういったところの、支援とかっていうのは県の取り組みとしてもあるのかなという気はします。

あとその周遊型のパスについても、初期の導入段階では、告知関係の支援であったりとか、もしかしたら外国人の方が、お買い物になられるときは若干の補助、でも、お金持っている方がお見えになるのであんまり補助は意味ないのかなって気もしないでもないんですけども、まずは告知のところできちんご支援をしていただくっていうのが一つの取り組みとしては生きてくるのかなというふうな気はしていました。

あと皆さんやはりこの人材不足ってお話本当に深刻だと思うんですけども、一つは生産性上げるって言うても効率化じゃなくて、トップラインを上げれば生産性は上がるんですよ、売上を上げると。要は、単価を上げるしかないんですね。生産性を上げる話っていうのは、よくよく効率化と勘違いされるんですけど売り上げを上げていくというところに注力すべきなんだろうなという気がものすごくしてまして、そのために、何をどうする、県として何を支援するのかっていうのはあるんだけど、そういった切り口で何か考えていく。K P Iもその国内旅行者の消費額はありますけれども、あと、このホテル関係の稼働率のデータ追っかけていますけど、単価上げると稼働率は伸びないんですよ。今のホテルの現状っていうのは、おそらく人がいないんで、もう稼働率は7割そこそこで留めといて単価をどんどん上げようという施策それをやった方がホテルも儲かるんですよ、はっきり言って。ですからホテル関係のデータを追っかけるにしても、もうこれからはかしたら、いわゆる単価も追っかける。よくR e v P A Rという指標があるんですけども、そういったものを追っかけるようにされた方が、稼働率だけでは正しいものが出てこない時代が来るかもしれないなと思って聞いていました。私からはそんなところです。

はい。一通り意見が出たということでございます。

あと欠席されている委員から何かご意見預かっていましたらよろしくお願いします。

(事務局)

はい。欠席しております委員から意見をお預かりしておりますのでこの場でご紹介させていただきます。

きます。大きく4点ございます。

1点目、地域にお金が落ちるためには、やはり宿泊していただくことが重要。そのためには、どうやって観光客を夜や早朝につなげ止めていくか考える必要がある。

2点目でございます。コロナ禍において、国の補助金などもあり、新しい商品、コンテンツをたくさん作ってきた。これからは、これをいかに売っていくかが重要で、そのためには、もっと商品を知ってもらわなくてはならない。

3点目、かつてふるさと創生1億円などがあり、それで作った観光施設などが、いわゆる老朽化してきておりこれが課題となっている。

最後4点目、インバウンド観光客などから、自転車はどこで借りられるかといった問い合わせをいただくことがあり、SDGsやエコといった考え方が広がっているのではと感ずることがある。サイクルツーリズムというのはそういった面でもトレンドとなり得るのではないかと。

以上4点でございます。

(会長)

はい。ありがとうございます。

これで皆様からご意見を一通りいただいたということになるのですけれども、その他、言い忘れたとか、皆さんの意見を聞いて、少し意見交換をしたいという方がおられましたら、どうぞ挙手をしていただいて

(挙手無し)

よろしいですか。はい。ありがとうございました。皆様の貴重なご意見ありがとうございました。皆様から賜りました意見を踏まえて、事務局において、次期福岡県観光振興指針の概要案を作成していただき、次回の審議会、11月ですかね。予定としてはですね、そこでお示ししていただき、次回議論したいというふうに思っております。

よろしいでしょうか事務局の方。

(事務局)

はい。

(会長)

以上で本日の議題はすべて終了いたしますが、最後にその他事務局から何かあればよろしくお願ひします。

(事務局)

冒頭、ごスケジュールでもご説明しました通り、今年度の審議会につきましては、計4回の開催を予定しております。次回以降のスケジュールですね審議会のスケジュールの詳細につきましては、事務局から改めて調整のご連絡をさせていただきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。



(会長)

はい。それでは以上をもちまして本日の審議会を終了いたします。

議事進行にご協力をいただき、ありがとうございました。

本日皆様からいただきましたご意見を参考に、福岡県におかれましては、より一層の観光振興に取り組んでいただきたいというふうに思っております。

それでは進行をお返しいたします。

(事務局)

会長どうもありがとうございました。

委員の皆様におかれましてはいろいろな多様なご意見、本当に示唆に富むものがいっぱいありました。今後の施策の検討にすぐ活用させていただけるものもたくさんあるなと思えました。

または、私たちのちょっと視点が足りてない、新たな視点でもいただきましたので、また、来年度以降の観光指針にしっかり盛り込んでいきたいと思っております。

まだこの審議会後3回ございます。皆さんどうぞよろしく願いいたします。

それでは以上で第1回の観光審議会を終了したいと思います。

皆様お疲れ様でした。